



正三位勲二等男爵永山盛輝叙勲

ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十五年一月十八日

内閣總理大臣子爵桂太郎

内閣

明治三十五年一月十一日

勅

内閣總理大臣

賞勳局總裁



正三位勲二等男爵永山盛輝儀
 夙勤王ノ志厚ク維新ノ際奥羽各
 地ニ轉戦シ勲勞方不尠明治二年御東
 幸中用度司判事申付ラレヨ尋テ司
 度權大佑筑摩縣權令新潟縣令等
 ニ歷任シ十五年三月勅任ニ進メラレ其後
 元老院議官ト為リ廿三年錦雞間祇

内閣

候被仰付後々貴族院議員ニ任セ
 之勤勞不尠候處目下病氣危篤
 ノ趣ニ付此際特ニ前功ヲ録セラシ勲一等
 陸叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ度此段
 仰允裁

めくれず

家

正三位勲二等男爵永山盛輝ハ
夙ニ勤王ノ志厚ク維新ノ際王事ニ
奔走シ明治二年御東幸中用度司
判事申付ラレ尋テ司度権大佑筑
摩縣權令新瀉縣令等ニ歷任
シ明治十五年三月勅任ニ進メラレ全十
八年元老院議官トナリ全廿三年錦
鷄間越候被仰付後貴族院議員
ニ任セラレタルモノニシテ多年勤勞不

尠候處目下病氣危篤ノ趣ニ付
旧功ヲ録セラレ特ニ勲一等ニ陞敘シ
瑞宝章授賜セラレ候様御詮議相
成度此段及申候也

明治十五年一月十一日

内閣總理大臣子爵桂太郎

賞勲局總裁子爵大給垣 啟

永山盛輝畧歴止

一安政二年外船一隻薩多山川港沖ニ来航ス
ルヲ以テ守備兵ヲ差遣スルニ當リ盛輝大
砲隊長島津隼見ノ副官ト為ル外船尋
テ拔錨シ事遂ニ輟ム

一文久二年島津久光上京盛輝其守衛ト為リ
從フ

一同年十二月藩命ヲ奉シ西栗田口宮ヲ守護ス
盛輝其家從ニ加ハリ御用人格ト為リ名ヲ
内ト賜フ

時ニ諸藩ノ有志宮ニ參候スル者多シ故ニ守
護ヲ任トスルノミナラス屢其應接ノ衝ニ當ル
一文久三年八月十八日勅シテ大和行幸ヲ止メ長藩
ノ禁闕ノ守衛ヲ解ルニ當リ薩藩九門警衛
ノ内命有リ盛輝等部署ヲ整ヒ各處ノ守備
ニ從事ス盛輝晝夜兼行シテ鹿兒島ニ下リ
之ヲ報ス尋テ島津久光ニ從ヒ上京ス途中命
ヲ受ケ先發登京シ使事ヲ辨理シ又久光ヲ兵
庫ニ迎へ再ヒ兵庫ヨリ大坂ニ使シ京都ニ復命

シ復々中川宮ニ勤仕ス

一 元治元年七月十九日長藩嵯峨ノ兵蛤御門ノ警衛ヲ破リ禁闕ニ入ントス各藩協力撃手テ之ヲ退ク盛輝竊カニ思フ所アリ特ニ中川宮ヲ戒嚴ス已ニシテ市街火起リ炎焰殆ト全京ニ被ントス盛輝衆ヲ指揮シ百方之ヲ防キ禁闕ニ及ハサルヲ得タリ

一 慶應三年六月京都留守居添役トナル幾モ無ク徳川慶喜政權ヲ返還スルヲ以テ朝廷在京諸藩ヲ召ス薩藩西郷大久保岩下等日々參朝ス盛輝之ニ附添控席ニ在リテ公事ヲ辨ス

一 明治元年六月薩藩九番隊監軍トシテ東海道ヨリ進軍シ東京ニ達スルヤ薩ノ三邦九ニ乗り品川湾ヨリ常州平潟小名濱ニ上リ賊兵ヲ撃手之ヲ退ケ進テ般名城平城ヲ攻ム賊嶮ヲ恃テ下ラス我軍終日激闘夜ニ至リ城竟ニ陥ル隊長樺山十兵衛重創ヲ負テ後遂ニ死ス盛輝之ニ代テ九番隊長トナリ諸隊ト共ニ三春ニ向フ城主投降八月廿日二本松城ヲ攻畧シ翌日母成嶺ニ向

フ賊兵嶮ニ拠リ墨ヲ築キ以テ拒戦ス本隊其正
面ヲ攻撃テ各隊兩翼ヲ扶持シ戦ヒ最モ力ム賊支
フ能ハス墨ヲ棄テ走ル我軍此ニ露營ス翌日十
六橋ニ向テ進軍ス十六橋ハ猪苗代湖ヨリ發スル激
流ニ架スル橋梁ホニシテ賊兵之ヲ占レハ則チ官軍ノ
前進ヲ阻支シ得ヘク官軍之ヲ占レハ大ニ後隊ノ
進軍ヲ容易ナラシム實ニ若松城ノ要塞ニタリ
賊橋ヲ撤シ兵ヲ置キ守備ス盛輝衆ヲ勵シ奮
戦シ撃テ賊兵ヲ走ラス進テ若松城下ニ侵入シ
城ヲ攻ル連日九月廿二日賊終ニ降ル

一 同年十月一日仙臺ニ向ヒ進軍シ福島ニ至ルヤ
賊兵降ヲ納ルノ報アリヨリ東京ニ凱旋ス

一 二年宮内省ニ奉職シテヨリ筑摩縣權令新潟縣
令元老院議官等ニ歷仕シ貴族院議員ニ勅撰セ
ラレ男爵ヲ授ケラル、等履歷書ニ詳ナルヲ以テ
之ヲ略ス

小牧昌業
時任為基

